

3676 地球のかおり 「ガウディの原型」(産経新聞)：状況

スペイン、バルセロナ。ガウディ作の建築物がある。サグラダ・ファミリア聖堂。
バルセロナの街を散策すれば、彼の作品があちこちにある。
最初、見たとき、その異様さに驚いたものである。

19世紀のバルセロナ、カタルーニア独自の文化、
フランスのアール・ヌーヴォーと並ぶ、
モデルニモス（近代主義）という様式だそうだ。
ガウディは、建築の詩人と言われたとある。
日本人の私には、理解しがたい芸術。確かに印象が強く残っている。

バルセロナは、ジョアン・ミロやピカソの育った
芸術の町であり、興味を持っていた。
それ以上に、スペイン、バルセロナを訪ねて、
アントニ・ガウディの存在が強く印象に残っていた。

今回の旅は、フランスの国境を越えて、アンドラという小国を經由して
地中海沿いにスペインに入国。そして、バルセロナ。個性のあるバルセロナは、興味が尽きない。
アントニ・ガウディ、ジョアン・ミロ、パブロ・ピカソ、街並みも面白い。
立ち去りがたかったが出発。地中海沿いに南下する選択肢もあったが、
今回は、あまり、日本人が行かない北西を選択した。

バルセロナ滞在を楽しんだ後、目的を決めずに車を走らせた。
バルセロナから北西 53 キロ。突然、田園風景の中にそびえ立つ灰白色の岩山。
もともと湖の底の部分で、大昔、地殻変動で隆起した岩山。
標高 1.235 メートル。ベネディクト派の修道院がある。
黒いマリア像と少年合唱団が有名だそうだ。カタルーニア地方の守護神？
いままで見たことのない光景。しかし、なぜか、初対面のはずなのに、
以前に会ったように思えた。探訪を開始。

1975年、フランコ独裁政権が崩壊。

中央政権制度反対の急先鋒がカタルーニャ地方。

経済、金融力を生かして自治政府を樹立。ともかく、立地が恵まれている。

地中海、良質の土壌の田園風景、気候にも恵まれ、

古くから、フェニキア人、カルタゴ人、ローマ人など、様々な文明が入り込んで来ている。

鍛えられるのも道理。

ふと、ガウディの建築が、眼前の光景に似ている。そんな印象を持った。

ガウディは、カタルーニャ地方のレウスに、金物細工師の子として生まれ、

バルセロナの建築学校で学んだとある。

父親も、ガウディもこのモンセラットを訪ねたようだ。

いや、定かではないが、一時、祖先が住んでいたのかもしれないと感じた。

子供の頃の潜在意識、これは消えない。

遺伝子と環境、ガウディ誕生の秘密がモンセラットにあるように思えてならない。

単純に形状が、見方によって同じに見える。

突然、話がそれるものの、イタリアのミケランジェロ、

イタリア山脈は、6割以上が大理石。

大理石が、裏山にゴロゴロしていたという。だから、作品創作が容易だったと。

もちろん、個人の能力もあるが・・・

心を込めた芸術というものは、やはり本人の生き様であり、

育った環境や状況が、強く影響するのではないかと、ふと感じた。

単なる形状の変わった岩山ではない。私の立つ位置は平凡、それだけに違いが際立つ。

何か話しかけているように感じた。

貴方の芸術は？京都生まれの京育ちの日本人。飾る必要もない。

アイデンティティを求めて、魂の世界をさまよう。

おぼろげながら、何かが見える。

訪ねて良かった。